



— イザヤ40章・1-5、9-10、テトス2章・11-14、3・4-7、ルカ3章15-16、21-22 —

〔そのとき、〕民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。 -ルカ 3章-

## 神様の心に適う者に

神の民イスラエルのバビロン捕囚は、その罪のため、悪霊に拉致されて、その支配下に服する、洗礼前の私達と同じ、いわゆる、救いのない苦役の時代を現し、捕囚からの帰還は、神の憐みで罪が許され、再び神のもとに戻された、私たちの洗礼を示しています。



洗礼とは、聖霊による清めによって、悪霊の支配下から解放され、神の子として新たに生まれたことです。

神がご自分に背くことさえできる『自由』を私たち人間に与えておられるのは、私たちに好きなことをさせるためではなく、本当の自由が何であるかを学び、自ら選んでその幸せに預からせるためです。

本当の自由とは、自分の思い(自我)が求める欲望を満たすことではなく、神が用意しておられるもの、いわゆる、粘土である私たちが、陶工である製作者、神の意図に従って生きることにより他なりません。

ベランダのパン屑を食べに来る「雀の親子」の教訓を思い起こしてください。

餌を前にしても、食べることをせず、ただ口を開けて、親が口に入れてくれるのを待つ子雀。それは甘えているのではなく、初めて体験する外界に、何が毒で、何が食べ物か知らない無力な子雀に、神が与えた知恵です。

私達も、神の被造物として、自分の無力さに気づいたら、今日、イエスさまがヨハネから洗礼を受けられたように、神の子どもとして戴いている、神の心の中にある答えを求めて生きて行く『謙虚さ』を身にまといましょ。マリア様を母としていることを自覚して！

